

重要他者に対する再確認傾向と表情認知及び不安の関連

HP26-0013A 福地 友輔

問題・目的

対人関係は、日常生活において重要な役割を担っています。特に親友や恋人などの重要他者との関係は、精神的に良い影響を与えることもあるが、精神的に悪影響を与えることもあります。精神的に悪影響を与える要因の1つに、重要他者に対する再確認傾向（以下、再確認傾向）が挙げられます。再確認傾向とは、例えば、親友に「私たち友達だよね」と何度も確認してしまうように、重要他者に対して一度確認したことでも、何度も確認してしまう傾向のことです。この再確認傾向は、精神的健康との関連が分かっており、再確認傾向と抑うつと不安の関連が分かっています。また、再確認傾向がコミュニケーション能力によって精神的健康を高めることが分かっています。なので、本研究では、再確認傾向と不安に対して、コミュニケーション能力の中の相手の表情を判断する表情認知が影響するののかということを調べることにしました。

方法

実験参加者は大学生 60 名(男性 22 名, 女性 38 名)でした。再確認傾向は、勝谷(2004)の改訂版重要他者に対する再確認傾向を使って測りました。不安は、清水・今栄(1981)の State-Trait Anxiety Inventory(STAI)の日本語版の中から、普段感じている不安を測定する A-Trait を使って測定しました。表情認知は、喜び顔と恐れ顔の 2 枚の画像を組み合わせ、喜び顔と恐れ顔 50%ずつや喜び顔 25%で恐れ顔 75%など、2つの顔の割合を変えた 9 枚の画像を作り、顔画像が快な表情なのか不快な表情なのかを判断する課題で測定しました。

結果と考察

本研究では、再確認傾向と不安との関連性は見られましたが、再確認傾向と表情認知との関連性はないことがわかりました。つまり、再確認傾向と不安に表情認知は影響しないことがわかりました。そして、再確認傾向と不安は、何かに影響されない、直接的な関係性である可能性が考えられます。